



感謝状を受け取り、うれしいと笑みを見せる李舞貴くん

東日本旅客鉄道(株)盛岡信号通信技術センター所長感謝状 6月10日

李舞貴くん(青笹町)に感謝状

JR釜石線綾織～遠野間馬場踏切の遮断桿が下りないことを見つけた佐々木李舞貴くん(4歳、青笹町)に盛岡信号通信技術センター所長感謝状が贈られました。李舞貴くんは6月3日、家族らとSL銀河を見に現地へ。遮断桿が動かないことに気付き家族に教えました。李舞貴くんは、「踏切が閉まらなくておかしいと思った」とにっこり。前日の落雷が不具合の原因と推測され、事故を未然に防ぎました。



土を掘り起こし、カラマツの苗木を植える参加者

遠野市緑化祭「里山フェスタ2022」 6月11日

大きく育て、児童らが森林づくり

市緑化祭里山フェスタは宮守町達曽部の椈川目市有林で行われ、森林の役割と大切さについて理解を深めました。市内農林業関係者や森林愛護少年団の児童ら295人が参加。約1時間半、くわで斜面の土を掘り起こしカラマツの苗木2,700本を植樹しました。佐々木日葵さん(達曽部小1年)は、「土を掘るのが難しかったけど楽しかった。でっかい木に育ててほしい」と成長を願いました。



落語で笑いを誘った落語家・桂雀三郎さん

遠野市芸術文化協会15周年記念「とおの寄席」 6月11日

笑いと拍手で会場包む

同協会の設立15周年を記念した「とおの寄席」が遠野市民センターで開かれました。市民243人が来場。寄席では▷琵琶の演奏▷語り部による遠野昔話▷落語——の3つが披露され、会場内は笑いと拍手で包まれました。友人と参加した小森幸子さん(上郷町)は、「コロナの状況が長く、しばらくこのような機会がなかった。落語がとてもおもしろくてたくさん笑った」と楽しみました。

5月22日 遠野市消防演習

まちを守る姿勢、勇ましく

消防演習は、早瀬川緑地公園を会場に行われました。消防団員やラッパ隊の隊員ら総勢311人のほか、消防車両38台が集結。松田克之消防団長は「日頃から有事のために訓練を積むことで、いざというときの対応ができる」と訓示しました。訓練では、分列行進とポンプ車による放水訓練を実施。参加者は訓練を通じて日々の備えの重要性と大切さを再確認し、防災の意識を高めました。



威風堂々たる分列行進を行う消防団員

5月24日 米づくり体験～田植え～

つなぐ棚田遺産で児童が田植え

昨年度、つなぐ棚田遺産に認定された宮守町宮守の水田で宮守小5年生15人が昔ながらの田植えを体験しました。宮守小と宮守棚田振興協議会、遠野山・里・暮らしネットワークなどが連携して初開催。児童は宮守川上流生産組合の組合員から指導を受け、あきたこまちの苗を手で植えました。伊藤元気くん(5年)は、「田植えはおもしろいけど楽しい。おいしいく育ててほしい」と期待を込めました。



泥の感触も楽しみながら水田3畝分を手植えた宮守小5年生

6月7日 新社会人のつどい

気持ち新たに大きな目標を

同つどいはあえりあ遠野で行われ、市内で働く新社会人26人が参加しました。新社会人を代表して泉商事(株)の多田凌樹さんがあいさつ。研修では「お金のキホンとiDeCo」について菊田修一岩手銀行遠野支店長が講演しました。今春就職した氏家もえかさん(とおの松寿会)は、「仕事をして2カ月、まだまだ慣れないけどやりがいを感じる。早く社会の役に立ちたい」と抱負を語りました。



講師の話に耳を傾ける新社会人たち



⑥緑化祭で森林保全を呼びかけた達曽部小森林愛護少年団員



教えて! SDGs ゴール15. 陸の豊かさを守ろう

SDGsのゴール15は、▷陸域生態系の保護・回復▷持続可能な森林管理▷土地の劣化阻止・回復——などを目標としています。人間は陸から多くの恵みを得ています。森林は陸地の約3割を占め、生物に必須の生息地。空気や水などの供給源としてだけでなく、気候変動への対処にも不可欠な役割を担います。市は、▷植樹▷ごみの減量▷農地の耕作放棄地対策——などの取り組みを行っています。

News 新たなALTが市内小中学校に着任

日本と外国、英語でつなぐ橋渡し

遠野中学区と遠野東中学区では英語や文化を教えるALT(外国語指導助手)として、ともにアメリカ合衆国出身のジョン・フレドリック・レック先生(ニックネーム:フレッドさん)とジェシカ・ネボルスキ先生の2人が着任しています。フレッドさんは「遠野の子どもたちはとても元気で素直」と話し、ジェシカさんは「日本の文化が好きだからこそ外国の文化をみんなに教えたい」と思いを語りました。



4月から着任しているフレッドさん⑥とジェシカさん